

外国から学んだ日本の文化（第6学年）

～長崎くんちと和華蘭文化～

奈良市立富雄第三小中学校 河野晋也

1. ESD を生かした授業づくり

（1）単元名・学校種と学年

「外国から学んだ日本の文化」 小学校第6学年

（2）単元の概要

本単元は、長崎で江戸時代から市民に愛されている伝統的な祭り“長崎くんち”（以下“くんち”）を取り上げる。長崎の文化は和華蘭文化という言葉に象徴されるように、日本・中国・オランダという外国の文化が入り混じり、“くんち”も中国から伝わった「龍踊り」やオランダ人役が登場する奉納踊り「阿蘭陀万歳」といった奉納踊りが見られる国際色豊かな祭りである。“くんち”に限らず、ランタンフェスティバルやペーロン大会などの行事、カステラや中国の菓子等の食べ物、石畳等の町中の風景にも外国の文化が多くみられる。“くんち”の「龍踊」は中国風の楽器の音に合わせて数人の龍衆（じゃしゅう）が龍を操って舞う奉納踊りである。本来は中国の雨乞いを祈念する演技で、江戸時代に長崎の唐人屋敷に住んでいた中国人たちの踊りを近くの町人が習ってくんちに取り入れた演目である。

茶道や書道を学んできた児童たちは、伝統文化というものは日本独特のものであり、古くからその形を変えないものであると考えていることが多い。しかし文化とは互いに様々な影響を与え合い、より良いものより人々に合うものに変化していくものである。日本で伝統的に受け継がれている文化も最初は海外の優れた文化として取り入れたものであることがある。それを日本人がより良いものにしようと形を変え受け継いでいるものもある。

導入では伝統文化のイメージを話し合い、我々が“伝統文化”と呼んでいる茶道やひらがなもルーツは海外から取り入れたものであることを確認した上で、長崎くんちの様子を鑑賞させ、日本固有のものとは限らないということに気付かせたい。くんちをはじめとする日本の文化のルーツを調べることで、我々の先祖が海外から優れた文化を取り入れ日本の文化として発展させてきたことに気付かせ、優れた文化を学び取ろうとした日本人の思いを考えさせる。これらの学習から、日本の文化のルーツとその素晴らしさに気づくとともに、外国の文化を自国の文化と同様に尊重し、学びとる大切さを知ることができる。

（3）ESD の視点の明確化

本単元では、日本の伝統文化について「古くから受け継がれた日本独特のもの」または「日本だけの文化」という認識をもつ児童に長崎くんちを紹介し、外国から取り入れた祭りが江戸時代から続いていることを知らせる。日本とは少し違う中国の出し物や風習、そして外国の文化を取り入れた長崎の町に興味を持たせ文化の多様性に気付かせるとともに、どうして外国の文化を取り入れ、長く受け継ぎ守っているのかを考えさせる。「伝統文化を守る」とは決して古いものを残すことではなく優れているもの素晴らしいものを残すことであり、他から本当に優れているものを取り入れて自文化をより良い形に変えていくことも必要であるということに気付かせ、子どもたち自身に“伝統文化の良さを守り受け継ぐ役割”と“より素晴らしい文化へと育てていく役割”があること、そしてそのためには外国の文化も自国の文化と同様に尊重し、本当に素晴らしいものを取り入れていく心が必要であることを伝えていきたい。

【持続可能な社会づくりの構成概念】

構成概念Ⅰ 多様性…国や地域によって文化は様々であり、それぞれの国や地域で大切に育まれている伝統文化があること。【多様】

構成概念Ⅱ 相互性…日本の文化や伝統文化と呼ばれるものはその良さが大切に受け継がれながらも、外国の文化の良さを受け入れ、学びとることにより良い形へ変化していること。【相互】

構成概念Ⅵ 責任制…“伝統文化の良さを守り受け継ぐ役割”と“より素晴らしい文化を育てていく役割”が自分たちにあることに気づくこと。【責任】

(4) 留意事項

①教材のつながり

本単元は、鎖国時代に出島があった影響で長崎に中国やオランダの文化が入り混じった文化が形成されたことを導入として取り上げている。ここでは社会科の「江戸時代の文化」との関連が考えられる。また地域の行事や学校行事について提案し合う時間では国語科の「討論会をしよう」という単元と関連していくと考える。

②人のつながり

外国の文化・祭りを扱う際には、その国の人々の願いに気付かせ、日本と同じく作物の恵みや天候の安定など人の力では変えることのできない自然の恵みについて、祈っているという点に気付かせたい。その上でそれぞれの国の文化の素晴らしさや良さに気付かせていく。

③能力・態度のつながり

先人の工夫によって形作られてきた日本の文化の良さを知ること大切にしようとする思いを育て、また外国の文化が我々の文化に取り入れられていることを知ること外国の文化も尊重する態度を育てる。

2.ESD の視点を生かした授業の実践

(1) 単元の目標（重視する能力・態度）

能力・態度② 今の私たちの生活には日本と外国の様々な文化が影響していることに興味をもち、その良さを見直し“将来の伝統文化”として残すべきものを考える。《未来》

能力・態度③ 奈良の伝統的な祭りや長崎の祭りを比較して国や地域によって様々な祭りの形があることを知り、また外国から取り入れた文化を大切に受け継いでいる地域があることに気づく。《多面》

能力・態度⑥ 伝統文化の意味について見直し、日本の文化が様々な国や地域の文化から良さを受け入れ、学びとり、大切に守り育まれてきた人々の思いを考える。《関連》

(2) 評価規準

未来	多面	関連
① 伝統文化とよばれているものにも外国の文化が影響していることに気づく。 ② 自国と外国の文化の違いや良さに気付き、未来の伝統文化について考える。	① 奈良の祭りと比較して長崎くんちや「龍踊」について調べる。 ② 様々な国の文化が入り混じる長崎の文化を調べ、それぞれの国の文化の良さを考える。	① 「龍踊」の良さを見出して、外国の文化を取り入れ受け継いでいる人の思いを考える。 ② 本当に良いもの、どんなに年月がたっても愛されるものが、伝統文化として残っていることに気付く。

(3) 展開の概要

時間	主な学習活動と内容	◇教師の支援 ◆主な評価
3 時間	【長崎くんちについて知ろう】 ○ 伝統文化と言われて思いつくものを出し合い、“伝統”“文化”という言葉についてのイメージを膨らませる。 ○ 江戸時代から続く長崎の「長崎くんち」には日本の祭りであるにもかかわらず中国の出し物が登場することに気付かせる。 ○ 奈良の祭りが古くから受け継がれ、大きく形が変わることのなかったことに気付かせ、「長崎くんち」の歴史について調べる。	◇同じ伝統的な祭りでありながら、海外の文化を取り入れている長崎の祭りの特徴に気付かせる。 ◆伝統文化という言葉の意味を自分なりの言葉で説明しようとする。《未来》 ◆長崎くんちについてその歴史を調べる。《多面》
3 時間	【どうして中国の出し物が日本の祭りに登場するのだろう】 ○龍踊りに焦点を当て、中国の文化が日本の祭りに登場しているわけを考える。 ・くんちが始まったころは龍踊りは演目として登場していなかったことを知らせる。 ・出島があった当時の長崎の町の様子を見せ、外国の文化が多く入っていることに気付かせる。 ・龍踊の意味について知らせる。 ○長崎と外国の関係について調べ、「龍踊」以外にも外国文化が取り入れられている様子を調べる。 ○龍踊を喜ぶ観客の様子を見たり龍衆たちのインタビューを聞き、くんちと龍踊に込める思いを聞きたる。	◇長崎の祭りに中国の文化が取り入れられている理由を当時の時代背景や長崎の町の様子から考えさせ、祭りに込められている思いを受け継ぐことを龍踊をする龍衆たちが大切にしていることに気付かせる。 ◆くんちの「龍踊」の意味や歴史について調べる。《多面》 ◇食べ物、建物、祭り、などのグループに分かれて長崎県に見られる外国の文化について調べる。 ◇長崎の文化が「和華蘭文化」「ちゃんぽん文化」などと呼ばれていることを伝え、様々な国の文化と日本の文化が同居していることを伝える。 ◆長崎の文化を調べ、海外から取り入れた文化が大切に受け継がれていることに気付く。《関連》



精霊流し・ペーロン大会・中国風の寺院・旧正月の祭・石畳・卓袱料理・カステラ・墓参りの花火の風習・中華街・洋館群・江戸時代の教会…など



3 時間	【意外に多い？海外発、日本行きの文化】 ○身の回りにあるものを調べ、長崎の文化のように海外で生まれたものや言葉が自分たちの近くにもないか調べる。 ○伝統文化と呼ばれるものの中にも海外から伝わっているものがあることを知り、社会科（歴史分野）の教科書を参考にしながら伝統文化のルーツを確認する。 ○なぜ日本の昔の人は海外の文化を取り入れ、受けついできたのか互いの意見を交流し話し合う。	◇長崎に限らず私たちが使っている道具や言葉、文化には外国の影響を受けたものが多くあり、伝統文化と呼ばれるものにも海外の文化が深くかかわっていることに気付かせる。 ◆なぜ外国の文化を取り入れ、大事に受け継いでいるのか、受け継ぐ人の思いを参考にして考えている。《関連》
2 時間	【千年後の伝統文化】 ○海外から伝わった文化に囲まれて生活していることを確認し、どんなものが伝統文化として残しているかを考える。 ○千年後の伝統文化について、その良さ、素晴らしさを「千年残った理由」としてまとめる	◇“新しいもの”“珍しいもの”が受け継がれるのではなく、長く愛される良さがあるものが伝統文化として残ることを確認する。 ◆外国のものであれ、日本のものであれ、長く良さが認められる「素晴らしいもの」が伝統文化として受け継がれていくことに気付く。《関連》 ◆「未来の日本の伝統文化」について自分の考えをもって話し合いに参加している。